

十島村教育委員会だより 令和5年10月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【燃ゆる感動鹿児島国体から 特別全国障害者スポーツ大会へ!!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

(1) “スポーツの秋全開”

鹿児島県内全体を舞台とした特別国体が17日に閉会式を迎えました。28日から30日には全国障害者スポーツ大会が開催されます。

3年伸びた国体のために、選手たちは本当に日々のトレーニングを積み、この大会のために、全力で取り組んだことと思います。数多くの競技で優勝や入賞という感激を味わった選手もいた一方で、努力が報われずに結果を残せなかった選手もいたと思います。ナンバーワンを目指すトップアスリートの世界では結果が全てですが、そういう努力を知っているからこそ全ての選手に温かい拍手が送られるのだと思います。現場で選手の活躍を見たり、テレビで観戦したりした児童・生徒もその本物の「感動」を味わい、憧れを抱いたことと思います。

将来に向け、そういうふうな努力し、成長していく子供が1人でも多く出てきてくれることを願っています。

(2) 授業づくりへのこだわり

～宝島小中学校 口之島小中学校

中之島小中学校の研究公開～

宝島小中学校と口之島小中学校が今年度、地区指定「指導方法改善・教育方法」の研究公開を実施しました。2年間かけて、研究のテーマを掲げ仮説実証のための研究に取り組み、研究授業と授業研究を行いました。7つの学校はもとより、県内から3校の研究公開のために、26人の先生方が役場から、テレビ会議で参加していただきました。

研究授業では、授業に集中して取り組む児童・生徒の姿がありました。また、研究授業を行ってくださった先生方も、学校の代表として素晴らしい授業を提供していただきました。その後の授業研究では、7つの学校と、役場に集まっていた先生方もグループを組んで授業や



研究の進め方等について、活発な意見交換をしていただきました。3校についても有意義な研究公開になりました。

昔、研究授業が終わり気持ちが緩みかけていた私は、先輩から「研究授業の翌日からの授業が、もっと大事だ」と教えられたことがあります。本村の全教員が、一時間一時間を大事に積み上げて欲しいと思っており、管理職はそのことにこだわり続け、徹底（浸透度アップ）を図っていただいているところです。

「目指したい授業のイメージをもちながら、自分なりのこだわりをもって授業づくりに取り組み続ける姿勢」が、授業を変え子どもに力を付けます。それはやがて、学校を変えていく確かな原動力になります。

私たち教育委員会も児童・生徒そして学校や地域のために「怯まず、あきらめず、根気強く、工夫しながら」サポートしていきたいと思っています。

子どもの権利条約

子どもの権利条約は前文と1～40条に世界のどこで生まれても子どもたちが持っている様々な権利が定められています。条約に定められている権利には、大きく分けると以下のようなものがあります。



生きる権利

住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなどして、命が守られる。



育つ権利

勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できる。



守られる権利

紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働などから守られる。



参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできる。

【新聞に投稿】※学年は投稿時

令和5年8月17日 南日本新聞「子供のうた」掲載

宝島小一年 竹内 月音

じゃばじゃばじゃばじゃば
ともだちといっしょに
はじめてのすいすい
うみはあおいろで
きらきらひかっている
「ふかっ」とういてみた
そらもあおいろで
きらきらまぶしい
もっともっと
およぎたい

子供のうた
(九月八日 南日本新聞掲載)

チヨウチヨ
小宝島小三年 田中美羽

アゲハチヨウ
モンシロチヨウ
ほかにもしらない
チヨウがいる
もっとしりたい
チヨウがいる

ファミリー劇場 中之島 口之島

各島では、ファミリー劇場が、計画的に行われています。各会場では、多くの方々に参加をいただいています。芸術文化に触れる良い機会になっています。

9月23日 中之島会場 フラダンス



10月7日 口之島会場 島唄



十島村で学ぶ

【平島に来て】平島中学校 3年中馬隆博

僕は中学2年の時に平島に来て、今年で2年目になる。寮に中学生6人と寮監夫婦の8人で住んでいる。平島で1年半過ぎて、前の生活では全く縁のないようなことを数多く経験した。

例えばバードウォッチング。その名前すら島に来てから知ったのだが、このような島には春秋、渡り鳥が渡りの中継地として訪れるらしくここ平島はその絶好のスポットだそう。今年の春にカムリカッコウというとても珍しい鳥を見られたこともあり、僕はとても気に入っている。そして、それ以外にもここでしかない貴重な体験ができたと思っている。

僕は今、志望校合格に向けて、数学を主に勉強している。数学は、とにかく多い問題を解いたほうが良いと思っているし、面白い教科だ。そして、何よりも将来の夢を実現するためにも力をつけなければならない。

僕は将来、『精密機械』、特に半導体についての設計開発をして、次世代の電子機器の開発にかかりたいと思っている。今目指している高校は自分の夢を叶えるために絶対に入りたい。そのために数学はとても大切だ。

この島に来たことで、僕は大きく変わることができたと思っている。だから、この島に来るという選択肢を与えてくれた両親には感謝したい。そしてここ平島は、2番目の故郷だと思って、島立ちしてからも時々遊びに行きたいと思う。

【中之島小・中学校からのメッセージ】
教諭 山之内渉

「先生の次の赴任校は十島村立中之島小・中学校です」前任校の校長先生から教えていただいた瞬間、嬉しさのあまり、大きな声で「やった!」と叫んでしまい、隣の職員室にいた先生方を驚かせてから、早2年半が経ちました。船から降ろされた荷物をトラックから倉庫に降ろす作業や十五夜での綱引き・踊り、中之島大運動会・校区文化祭など、いろいろなことに島民の皆さんと一緒に取り組む中之島だからできる貴重な体験をさせていただき、充実した日々を送らせてもらっています。また、学校生活は「数学教育を再度見つめ直す機会」になっています。本校の教育の特色の一つである「専門性を生かした小・中相互乗入授業」の一環として、小学6年生に算数を教えています。小学校の算数を教えることで、小学校で学ぶ内容をより正確に把握することができ、中学生の数学の授業で小学校の学習内容を復習するときなどに活かすことができている。さらに、小学6年生には、計算や考え方の途中過程の書き方など、中学数学に向けた準備を1年かけて行うことができ、中学数学のスタートをスムーズに切ることができています。こういった取組ができるのも小中併設校である中之島小・中学校ならではのことであります。来年、本校は義務教育学校になり、変化の年となります。素直で元気な子どもたちが「15の島立ち」で自分の希望する進路を選択することができるように、入念に準備をするとともに、保護者・里親、地域の皆さんと協力しながら、様々な活動を通して、子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。